

菊の里地区福まちだより

No.
67

2020年
8月00日発行

地域ぐるみで、お互いに支え合う環境を整え、だれもが安心して暮らせるまちづくりのために「福祉のまち推進事業」として、地域住民の日常的な支え合い活動、ボランティアによる福祉サービスの推進を事業の基本目標として活動します。

先の見通せない状況が続いてはいますが、私たちは決して希望を失わず、やっぱり日々生き抜いています。例年、9月の福まちだよりは各部の活動状況の報告が主な内容ですが、今年は菊の里地区の行事を実施できず、各部の活動も見合わせていますので、再開に向けた思いを含んだ内容になっていると思います。



着任の
あいさつ

袖振り合うも多生の縁

「次の職場は、菊の里まちづくりセンターです。」

「き、菊の里まちづくりセンター……?」

今年3月、上司から異動先を告げられた時には「菊の里」がどこなのかもわからなかった私は、現在、職場名を聞き返す友人に少し得意げに菊の里の説明をしています。

数多くある札幌市のまちづくりセンターや、その他の職場の中で、菊の里まちづくりセンターに配属されたことにご縁を感じずにはいられません。

地域の皆さまが、自宅に帰ったような安心感を菊の里地区に感じ続けることができるよう、少しでもお手伝いができたらと考えています。

どうぞよろしくお願いいたします。



菊の里まちづくりセンター
所長 本多 絵里

菊の里まちづくりセンター 支援員自己紹介

島田 支援員

菊の里地区は町内会活動が盛んで、私自身も常日ごろから地区の皆さまの明るさに支えられています。今年度も支援員として町内会活動のサポートをいたしますので、どうぞよろしくお願いいたします。

吉光 支援員

4月より菊の里まちづくりセンターに勤務させていただいております。

今後も皆さまのご支援をいただきながら微力ではございますが、菊の里地区のまちづくりのためにお役に立てればと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。



まちづくりセンターでは住民票・印鑑証明・戸籍謄本等を交付しています ☎871-2355

就任の
あいさつ

今日は私のために!明日はあなたのために!

人生100年時代と言われますが、私の2月19日の手帳には「新型コロナウイルスによる感染者、北海道4名、札幌市2名」とありました。2月23日、菊の里連合町内会役員よりの「3月1日に予定されていた『菊の里フロアカーリング大会』を中止します。」の連絡以降、「わくわくポケット」「すこやかクラブ」をはじめほとんどの事業が中止されています。

就学前の児童を抱えるご家族の皆さまはこの自粛生活の中、どのようにお過ごしなのか大変気になるところです。私が参加する



健康フェスタ準備会議

「フロアカーリング同好会」には、60歳から最高齢89歳の仲間たちがいます。「足の手術をする」「病院で出会った」「入院した」などの情報が入り心配しています。平成31年の調査では「平均寿命」が女性87.45歳、男性81.41歳で、日常生活に制限のない「健康平均年齢」は女性74.79歳、男性72.14歳です。高齢化が進む現在、健康寿命延伸への関心が高まっていますが、地域の社会福祉協議会は具体的に何ができるのか模索し関わっていかねばならないと思います。

皆さまのお知恵とご支援、ご協力をお願いいたします。



菊の里地区社会福祉協議会
会長 伊藤 光夫

就任の
あいさつ

安心して暮らせる地域づくり

昨年4月、43年間の教員生活を退き、今年度から「福祉のまち推進センター運営委員会委員長」をお引き受けすることになりました。なにぶん、福祉や町内会のお仕事は経験がなく、戸惑ってばかりですが、よろしくお力添えのほどお願い申し上げます。

コロナ肺炎の蔓延のため前年度のような取組実施は難しく、企画だけを進めておりました。

私は40年あまり菊水元町に居住してきましたが、最近、この地域の良さに改めて気づかされています。お休みの日に子どもたちの声が心地よく聞こえます。同居している母が「ここは路にゴミが落ちていないし清潔だね。安全な町なんだね」とつぶやきます。町内会で公園や通りを清掃し花を植えることは当たり前のようになっています。慣れてしまえばあたり前のように感じますが、そうではないと思います。

「割れ窓理論」という地域環境に関する理論をご存じの方も多いと思います。割れた窓をそのまま放置すると、他の窓も割られるようになり、やがては生活環境全般が悪化するということです。この理論で大事なポイントは「割られた窓を放置する」事が「誰もこの地域に対して関心を払っていない」というサインになって、住民のモラルを低下させ地域の振興や安全保持に協力しなくなるということです。この理論は北海道警察でも採用され実証されているそうです。

地域の安心・安全な環境は一朝一夕にできたものではなく、取りも直さず長年にわたる地域の皆さまの努力と協力によってつくられたものだと思います。



菊の里地区福祉のまち運営委員会
委員長 向井 正樹

お知らせ

交通防犯部

■2020年8月30日「菊の里地区交通事故死ゼロ5,000日」達成!

日頃から交通安全諸活動に特段のご協力をいただき厚くお礼申し上げます。菊の里地区の多くの人たちが長年一丸となって取り組んでいる活動のひとつに「交通安全事業」があります。

平成10年4月菊の里連合町内会創立以来「菊の里地区の安全・安心な町づくり」をめざす活動の一環として、多発する交通事故を未然に防止し、とりわけ死亡交通事故を発生させないことを願って「交通事故死ゼロ運動」を展開して参りました。例年、地域総ぐるみの運動として「菊の里地区交通事故死STOP!大型街頭啓発」を21年間継続して実施いたしました。白石区の交通安全広報車や地区の青色回転灯装備車による啓蒙・啓発活動や横断幕による広報活動を行い、開会式では小学校の児童代表による交通安全宣言が行われ、その後、参加者全員で環状通と厚別通の交差点でドライバーや地域の皆さまに交通安全の呼びかけを行っています。平成22年に舞鶴公園会場から移動し、「ゆめらんど」さんの駐車場をお借りして、350名もの参加者を得て実施して参りました。大型街頭啓発のみならず、単位町内会による早朝街頭啓発や交通安全に関する運動・活動を真摯に継続した結果として、平成18年12月23日以降、令和2年8月30日に交通事故死0を達成し現在も継続しています。道央自動車道、札幌新道、環状通、厚別通りという極めて交通量の多い道路に囲まれたこの地区において、交通事故死ゼロ5,000日という成果は簡単なことではありませんし、地域の住民が誇ってもいいことだと思います。しかし、この数字は通過点であり、今後も私たち一人一人が日頃から交通ルールを遵守するとともに、子どもたちにも交通安全の意識を持たせるように努める必要があります。

■2020年「菊の里地区交通事故STOP!大型街頭啓発」の中止

令和2年9月17日(木)に「菊の里地区交通事故STOP!大型街頭啓発」を「ゆめらんど」駐車場(菊水元町5条3丁目)にて各関係機関、団体、小学校児童と地域の皆さまが集い、実施を予定していましたが、新型コロナウイルス感染が終息しない状況下、感染防止の観点と参加者の皆さまの安全を考慮し、今年度は誠に勝手ながら開催を中止させていただきます。

総務部

毎年10月に楽しみにしていました「収穫祭」を中止いたします。

女性部

今年は新型コロナウイルスによる恐ろしい病気が発生し、世界中の人々を震え上がらせています。収束の目処が立たず未だに感染は拡大しつつあります。秋の行事に期待されていた方も多かったと思いますが、致し方なく中止させていただきます。来年には状況が好転し実施できることを祈っています。皆さまどうかお変わりなくお元気でお過ごしください。

厚生部

9月に予定しておりました「菊の里地区パークゴルフ大会」は新型コロナウイルスの感染拡大を避けるため、今年の開催は中止といたします。

社会部

9月初旬、地域の学校で行われていました「防災のつどい」を中止いたします。

福祉部

4月の懇親を兼ねていた「研修旅行」は中止いたしました。

菊の里地区 青少年育成委員会

秋に菊水小学校で開催を予定していました「菊の里秋の子どもフェスタ」は新型コロナウイルスの感染を避けるため、残念ながら中止させていただきます。

わくわくポケット

令和2年度の「子育てサロン『わくわくポケット』」はコロナウイルス感染防止、お子様の安全を第一に考え、当面の間、実施を見合わせることにいたしました。今年度も季節の行事(七夕、クリスマス会など)や子育て相談、ストレッチ体操などたくさんの行事を準備しておりました。親子の触れ合いはもとより、親どうしが子育ての悩みや喜びを共有できる「子育てサロン」は必要で大切な場所です。それだけに今年の開催中止は本当に残念です。

状況が変わって再開できる時には、しっかりと防疫対策をたて、皆さまに足を運んでいただけるよう準備したいと思いますので、参加される皆さま、ボランティアの方々の更なるご理解とご協力をお願いいたします。

地域の身近な相談員として

菊の里地区民生委員



私たち、菊の里地区民生委員・児童委員、主任児童委員は20名で活動しております。

活動内容は、高齢者の見守り、暮らしに関する様々な相談や子育てに関する相談（虐待、いじめ、不登校、非行）などです。地域で暮らしを応援するための一番身近な相談員であり、区役所や関係機関とのパイプ役です。

今後も、皆様と連携を取り菊の里のために活動して参ります。

生活支援コーディネーターって、どんな仕事？

白石区社会福祉協議会

昨年、12月に白石区社会福祉協議会に入職しました菊の里地区担当の白石区第2層生活支援コーディネーターの山口裕子と申します。「生活支援コーディネーターって、どんな仕事ですか?」「何をする人なの?」と聞かれることが多くあります。生活支援コーディネーターの仕事は、介護保険法の地域支援事業（生活支援体制整備事業）に位置付けられているお仕事です。

その役割は、地域の皆さんの「あったらいいな」を形にするお手伝いをさせていただくことです。そのために、地域のことや皆さまの日常生活のちょっとしたお困りごと（例えば、電球交換など）を伺いに、菊の里地区の交流活動の場などに積極的にお邪魔させていただきたいと思っております。また、地区内の集いの場で地域の支え合いの必要性をお伝えさせていただいたり、住みよいマチとなるような話し合いの場の設置などに取り組んでまいります。

新型コロナウイルスが流行し、新しい生活スタイルが提唱されている中で、地域での支え合いの仕組みづくりや「あったらいいな」を形にするために、皆さまと一緒に考えていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



コロナ禍にあって菊の里地区の活動状況について

菊の里まちづくりネットワーク協議会
会長 鈴木 實

日本は新年早々、突然、新型コロナウイルスという目に見えない脅威に直撃され、瞬く間に感染者が増加し、国内全域に不安と恐怖をもたらしました。

当地区の皆さまも、外出の自粛要請や社会活動の停滞などで不自由な生活を余儀なくされ、心身ともにお疲れのことと心からお見舞い申し上げます。

さて、菊の里地区の活動を担う各団体が地域行事等を実施するには「人数制限」「体温測定」「こまめな消毒」「定期的な換気」など参加者や運営者の安全をを図る万全の策を講じる必要があり、全てをクリアすることは困難と判断し今月まで実施予定の主な地域行事は中止することといたしました。

地区の皆さまには本当に申し訳なく思っております。状況の収束を待つて、人命と健康を最優先に活気あふれる町づくりに努めてまいります。



健康フェスタ準備会議



【本誌は赤い羽根共同募金助成金で発行されています】

菊の里地区福祉のまち推進センター
菊の里地区まちづくりネットワーク協議会

〒003-0828 白石区菊水元町8条1丁目(菊の里まちづくりセンター内)

☎011-871-2448 / ☎871-2355